

〔その他〕

日本における看護文献提供環境の改善に関する検討会

吉本 照子¹ 岡田 忍¹ 山田 重行¹ 緒方 泰子¹
 根本 敬子¹ 河部 房子¹ 石垣 和子¹ 竹内比呂也²
 土屋 俊² 武内八重子² 今田 敬子³ 奥出 麻里⁴

The report of the meeting for improved information environment
 for education and research in nursing in Japan

Teruko YOSHIMOTO¹, Shinobu OKADA¹, Shigeyuki YAMADA¹, Yasuko OGATA¹
 Keiko NEMOTO¹, Fusako KAWABE¹, Kazuko ISHIGAKI¹, Hiroya TAKEUCHI²
 Syun TSUTIYA², Yaeko TAKEUCHI², Takako IMADA³, Mari OKUDE⁴

1. 本検討会のねらい

千葉大学附属図書館では、大学図書館を中心とする図書館相互貸借 (ILL: Interlibrary Loan) の実態に関する分析をもとに、日本における看護学文献提供の状況について問題提起を行った¹⁾。

すなわち、外国雑誌の電子ジャーナル化にともない、外国雑誌に対する複写依頼の減少がみられる一方、そうした減少を上回る勢いで国内雑誌に対する複写依頼が増加していること、その中で看護系の国内雑誌に対する複写依頼がとりわけ増加しており、今後の教育研究、特に大学院教育および実践における一層の需要増を予測すると、現状の文献流通の状況では維持困難な可能性があることであった。

附属図書館及び看護学部は、そうした文献の流通に関する日本の看護学固有の実態について、図書館及び図書館学研究者、看護学研究・教育・実践者、看護行政等の立場から検討し、問題の所在を明らかにすることをねらいとして、本検討会を企画した。

2. 実施内容

□主催：千葉大学附属図書館・看護学部

□日時：2006年11月30日（木）13：00～17：40

1 千葉大学看護学部

2 千葉大学附属図書館

3 上武大学看護学部

4 JFE健康保険組合川鉄千葉病院図書室

1 School of Nursing, Chiba University

2 University Library, Chiba University

3 Faculty of Nursing, Jobu University

4 Kawatetsu Chiba Hospital Library

□場所：千葉大学看護学部第2講義室

□プログラム

- NACSIS-ILLデータからみるわが国の高等教育における看護等関連文献の整備の状況
土屋 俊（千葉大学附属図書館長）
- 看護学教育の最近の動向と今後の展望
石垣和子（千葉大学看護学部長）
- 日本看護図書館協会加盟館における看護文献整備と需要の動向
今田敬子（上武大学看護学部教授）
- 病院図書室における看護文献整備と需要の動向
奥出麻里（JFE健康保険組合川鉄千葉病院図書室）
- 全体討議
参加者は34名であり、大学・短期大学・専門学校、病院等で看護学文献を提供・活用する立場の方々であった。

【講演概要】

● NACSIS-ILLデータからみるわが国の高等教育における看護等関連文献の整備の状況
千葉大学附属図書館亥鼻分館では、全国規模の学術情報共有システムとしてのNACSIS-ILL経由の文献複写受付件数が近年急増している。このことが示唆しているように、医学、看護系の文献整備は相対的に良好な状態にあるはずである。しかし、電子ジャーナルの導入による利用可能タイトル数の増加にもかかわらず、学外への依頼件数は減少していない。その要因として、和雑誌掲載論文の複写依頼の増加、とりわけ看護系文献への需要の急増があげられた。NACSIS-ILLデータの分析結果から、看護系文献の需要の増加は全国レベルでも顕著であることが明らかになった。看護系文献

の需要に関する現状は、新設看護系大学だけでなく、歴史の古い大学においても文献供給の改善が必要であることを示している。加えてNACSIS-ILLの実務及び複写にかかる費用は、利用者にかかる複写コストですべて充足されているわけではないことについて紹介した。

●看護学教育の最近の動向と今後の展望

年間5万人の看護師教育課程における大学の割合が上昇しつつあり、2006年度は144校となった。今後も増える見込みである。大学数の増加とともに、学会数も増加している。国内の看護系学会のうち総合分野を対象とし、会員数の多い日本看護科学学会の学会誌を例にみると、引用文献は学会誌とともに商業誌、紀要、報告書等、多様である。加えて、年代別の看護系商業雑誌の創刊数・種類について紹介し、管理・経営分野等、実践における新たな知見のニーズがみられることを述べた。

●看護図書館における看護文献整備と需要の動向

—日本看護図書館協会加盟館を例として—
看護系大学、短期大学及び専門学校図書館の資料整備は、大学では雑誌の比重が多いが、専門学校は設置基準程度の雑誌である等、違いがある。短期大学及び専門学校では、ILLの活動が少ない。看護系学会が増加する一方、所蔵館の少ない学会誌も多い。看護職者においては実践の問題解決のために、文献入手に対するニーズが高まっているが、自己負担で研究を行なっている医療機関もまだ多い。看護管理者であっても、入手のしやすさ等から、学会誌よりも商業誌を多く活用していた。また保健所、助産所、訪問看護ステーション等では図書室はほとんど整備されていない。

●病院図書室における看護文献整備と需要の動向
全国の病院図書室の状況に関する統計は少なく、全国の病院約9,000のうち、日本病院ライブラリー協会、近畿病院図書室協議会の会員数は合わせても約340である。看護師の図書室利用は、研究が必須であることに加え、事故防止、安全対策、患者へのインフォームド・コンセント等の活動など、現場のニーズをもとに増加している。文献検索に関しても、医中誌Web版、JDream等の利用

が増加している。一方、ILL依頼において必ずしもサービスを利用しやすい状況にはなく、医療機関と大学図書館の格差が大きい。今後さらに、病院図書室の機能の向上の必要性がある。

【全体討議】

4人の講演を通して、看護学文献の複写依頼の実態をもとに、1990年以降の看護系大学および看護系学会の急増による研究成果の増大、実践の場における研究需要の増大と研究成果の活用を阻害する文献入手のしにくさが、参加者間で共有された。また、行政機関や在宅ケア等の実践の場における文献入手の困難さに関する問題が指摘された。

商業誌、学会誌等、資料の種類にかかわらず需要が伸びている中で、書誌情報のみをデータベース化しても原文献が電子化されていなければ、ILLの需要は増大する。数人の参加者から、学術雑誌を電子化することが必要なのではないかという意見が出された。具体的な方策に関し、科学技術振興機構において日本の学協会の論文誌の電子化をすすめているので活用可能性があること、また紀要に関しては、機関リポジトリの活用可能性があることが指摘された。

3. 看護学部の活動に期待されること

看護サービスの質保証のためには、誰もがいつでも研究成果を活用しうるしくみが必要であり、看護学部では研究成果をより広範に活用してもらえるように、紀要第1号から著作権処理を行った文献について、電子化を行っている。また平成18年度は、紀要の論文の質を高めるために、査読システムの改善に取り組んだ。電子化は研究成果の検証のしくみとも考えられ、今後、附属図書館における看護文献の活用に関する実証的な研究等と連携しながら、国内の看護学研究の活用と成果の検証のしくみを検討していく必要があると考える。

文 献

- 1) 米田奈穂, 武内八重子, 加藤晃一, 竹内比呂也, 土屋俊: ビッグ・ディール後のILL—千葉大学附属図書館亥鼻分館における調査—。大学図書館研究LXXVI, 74-81, 2006。